

第62回新潟県保育事業研究大会

開 催 要 綱

主 題 すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現をめざして

開催趣旨

平成27年4月、子ども・子育て支援新制度が施行されました。

「子ども・子育て関連3法」が成立した後、平成25年4月以降、国の「子ども・子育て会議」等で、子ども・子育て支援新制度に係る各種基準及び内容が協議・検討され、そのとりまとめを踏まえ各自治体では条例が制定され、新制度施行に至っています。

各市町村で策定された「子ども・子育て支援事業計画（都道府県においては子ども・子育て支援事業支援計画）」に基づき、新制度に基づく事業が行われています。

保育・子育て支援関係者は、こうした制度改革の趣旨や今後求められる役割・責務を適切に理解するとともに、養護と教育の実践の下にこれまで培ってきた保育の営みの大切さを、広く社会にアピールする必要があります。

こうした保育をめぐる情勢をふまえ、保育の社会的な意義・役割について認識を一層深め、共有するとともに、全ての子どもの最善の利益の保障にむけた私たち保育関係者の姿勢を広く社会に発信できるよう、多様なテーマでの研究協議を深め、先駆的、効果的な実践を学びあうことにより、全国的な保育・子育て支援の拡充につなぎ、保育実践の一層の向上をめざすことを目的として、本大会を開催します。

主 催

新潟県社会福祉協議会、新潟県保育連盟、新潟県私立保育園連盟、新潟県保育士会、新潟市私立保育園協会

後 援(予定)

新潟県、新潟県市長会、新潟県町村会、新潟日報社、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局
読売新聞新潟支局、BSN 新潟放送、NST、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21

期 日

平成29年5月26日(金)

会 場

- ① 総会会場 新潟ユニゾンプラザ

新潟市中央区上所2-2-2

電話 025-281-5511

- ② 分科会会場 新潟ユニゾンプラザ 分科会会場一覧参照(P5)

新潟市中央区上所2-2-2

電話 025-281-5511

大会運営

- 1 大会は、式典、記念講演、分科会協議とする。
- 2 大会の企画、準備、運営及びこれらの処理にあたるため、実行委員会並びに大会役員を置く。
- 3 実行委員会委員並びに大会役員には、次の人があたる。
 - ① 新潟県社会福祉協議会常務理事
 - ② 新潟県保育連盟理事長、副理事長、常任理事、地区保育事業研究会会長
 - ③ 新潟県私立保育園連盟会長、副会長
 - ④ 新潟県保育士会会長、副会長
 - ⑤ 新潟市私立保育園協会会長、副会長
 - ⑥ 開催地担当者代表
 - ⑦ 分科会司会者(大会処理関係のみ)

参加者

- 1 この大会の参加者は次のとおりとする。
 - ① 保育所・認定こども園の施設長、保育士、調理員、栄養士、看護師等
 - ② 保育行政機関、保育士養成校の関係者
 - ③ 社会福祉協議会関係者
 - ④ 学識経験者
 - ⑤ その他保育事業関係者

日 程

【総会】5月26日(金)	
会場 / 新潟ユニゾンプラザ	
多目的ホール	
受付	9:00～ 9:50
保育歌斉唱	9:50～ 9:55
開会式	10:00～ 10:25
記念講演	10:30～ 12:00
昼食・移動	12:00～ 13:20
分科会打ち合せ会	12:10～ 13:00
(関係者のみ)	

【分科会】5月26日(金)	
会場 / 各分科会会場	
分科会討議	13:30 ～16:25
閉会挨拶	16:25 ～16:30

分科会

- 1 分科会は、6分科会とし研究主題は別記のとおりとする。
- 2 分科会は、司会者・助言者・幹事・意見発表者・一般参加者で構成し運営する。
- 3 司会者・助言者(各分科会1名)・幹事・意見発表者は、あらかじめ実行委員会で各保育事業研究会に割り当てられ、推薦された人を大会会長が委嘱し運営にあたる。
- 4 各分科会における助言者2名のうち1名は、大会会長が委嘱する。
- 5 意見発表者の発表時間は、1発表20分以内とする。
- 6 意見発表者は、4000字以内の具体的発表内容の原稿(別様式)とその意見要旨(報告書掲載)を150字程度にまとめて4月10日(月)までに大会事務局へ提出するものとする。

記念講演

「保育者が抱える保育の課題」

講 師 : ほあしこどもクリニック副院長 帆足暁子 氏

参加申込み

- 1 参加負担金は、1人4,000円とする。
本大会は研究協議することを目的とするため、各地区推薦の助言者を除き、司会者、幹事、意見発表者等の参加費の免除はないものとする。
- 2 昼食弁当は参加者全員申込みとし、1,000円(税込)とする。
- 3 参加申込みは別紙参加申込書の様式により4月10日(月)までに市町村保育担当課を経由し、大会事務局に申し込む。参加負担金(4,000円)とお弁当代(1,000円)は当日、受付にて支払う。
振込の場合は大会事務局に連絡のうえ、4月28日(金)までに次の口座へ振り込む。

※ 振込み手数料は参加者負担

【振込み先】

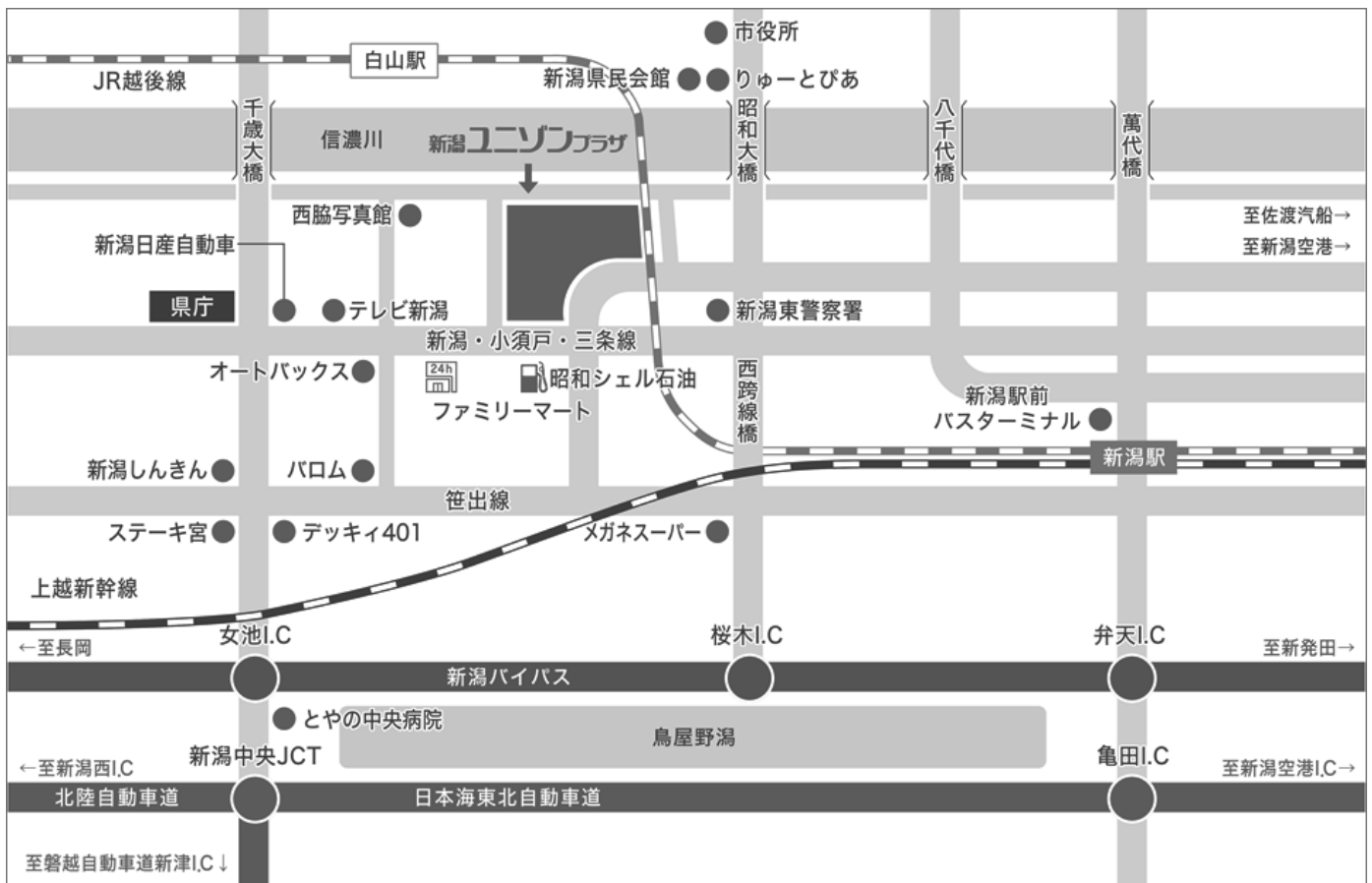
第四銀行 県庁支店 (普)1248723 新潟県保育連盟 理事長 平澤 正人(ひらさわ まさと)

- 4 参加申込み締切後の取り消しは、大会資料を送付し参加負担金及びお弁当代の返金はないものとする。
- 5 分科会参加者の多いところは、大会事務局で調整するので、第1希望、第2希望を必ず明記すること。
※ 5月1日までに大会事務局より連絡がない場合は第1希望で決定とする。

交通手段

「新潟ユニゾンプラザ」

- **路線バスの場合** JR新潟駅万代口バスターミナルのりば8番線発
 - ◎ 水島町経由 美咲合同庁舎ゆき(所要時間 10～15 分)「ユニゾンプラザ前」下車、徒歩1分
 - ◎ 水島町・県庁前経由 西部営業所ゆき(所要時間 10～15 分)「ユニゾンプラザ前」下車、徒歩1分
 - ◎ 古町・鳥屋野経由 曾野木ニュータウン・曾川・嘉木・酒屋・小須戸ゆき(所要時間 20～25 分)「ユニゾンプラザ前」下車、徒歩1分
 - ◎ 幸西・上所経由 ユニゾンプラザ前・女池愛宕ゆき(所要時間 15～20 分)「ユニゾンプラザ前」下車、徒歩1分
- **タクシーの場合** 所要時間 約 10 分 (新潟駅より)
- **車の場合**
 - ◎ 北陸・磐越・日本海東北自動車道「新潟中央 I.C」から 10 分
北陸自動車道「新潟西 I.C」～国道8号新潟バイパスは、「女池 I.C」利用
 - ◎ 国道8号線新潟バイパス「女池 I.C」、「桜木 I.C」から 10 分
- **高速バス利用の場合**
 - ◎ 「県庁東」下車、徒歩 15 分
 - ◎ 路線バス「新潟駅ゆき」に乗り換え 「ユニゾンプラザ前」下車、徒歩1分



大会事務局

大会事務局は次に置くものとする。

〒950-0994 新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ3階

新潟県保育連盟内「第62回新潟県保育事業研究大会事務局」

電話 025-281-5539 FAX 025-281-5540

E-mail niigata-u@ans.co.jp

第62回新潟県保育事業研究大会会場一覧

事 項	会 場	電 話	参 加 定 員
総 会	新潟ユニゾンプラザ 2階「多目的ホール」 〃 4階「大研修室」	025-281-5539	600名
司会者等打合せ会	新潟ユニゾンプラザ 4階「小研修室2」 〃 「小研修室3」		70名
第1分科会	新潟ユニゾンプラザ4階「大会議室」		120名
第2分科会	新潟ユニゾンプラザ4階「大研修室」		190名
第3分科会	新潟ユニゾンプラザ5階「特別会議室」		60名
第4分科会	新潟ユニゾンプラザ5階「中研修室」		80名
第5分科会	新潟ユニゾンプラザ 2階「多目的ホール」		200名
第6分科会	新潟ユニゾンプラザ2階「団体交流室2」		60名
来賓控室	新潟ユニゾンプラザ1階「楽屋2」		
講師控室	新潟ユニゾンプラザ1階「楽屋1」		
主 催 者	新潟ユニゾンプラザ2階「調理実習室前」		
大会当日事務局	新潟ユニゾンプラザ3階「県保育連盟、県保育士会、県私立保育園連盟」事務室		
救 護 室	新潟ユニゾンプラザ2階「和室」		
係員控室	新潟ユニゾンプラザ 4階「小研修室 4」		

研究テーマ

主 題

「すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現をめざして」

分科会

分科会は6分科会とし、それぞれのテーマ、研究方針、研究の視点は次のとおりとする。

〔第1分科会〕 保育者の資質向上を図る

ー職場内研修の充実による職員の資質向上ー

〈助言者〉新潟県立大学 教授 斎藤 裕 他

保育所における今日の状況として、就業形態や雇用形態の多様化の進展があげられます。そのため、職員間の連携、チームワークの形成や、職場全体としてのスキルアップに一層留意する必要があります。また、保育所をめぐる新たな制度も見すえた流れのなかで、今後保育利用者の一層の多様化がすすむことが想定されます。

本テーマでは、保育所内外の研修や情報共有のあり方、保育士の自己評価など、保育所職員の資質向上にむけた効果的な実践、さらには、今後保育従事者に求められる資質向上のあり方について研究を深めます。

【研究の視点】

- (1) 保育所内で研修に取り組む必要性とすすめ方
- (2) 研修意欲の向上と職場環境の整備
- (3) 保育所内外の研修の実践における課題と工夫点など

〔第2分科会〕 配慮を必要とする子どもや家庭への支援にむけて

〈助言者〉新潟県立大学 准教授 小池 由佳 他

保育所・認定こども園等では、発達障がいなど配慮を必要とする子どもの増加が指摘されてきています。また、保護者自身が生活面など何らかの課題をもち、子育てに困難が生じるケースも増えています。

本テーマでは、こうした子どもや保護者に対する保育・子育て支援関係者としての関わり方、あるいは保育者としていかに寄り添い、支援を行うべきかについて、研究を深めます。

【研究の視点】

- (1) 子どもの育ちの実態や課題を保育の中から明らかにしていく
- (2) 様々な機関との連携や協働の内容とそのすすめ方
- (3) 保護者との相互理解を図るための工夫

〔第3分科会〕 0歳児の現状と保育・子育て支援のあり方

— 子育てと子育て家庭を支える保育所となるために —

〈助言者〉 新潟青陵大学 准教授 藤瀬 竜子 他

〔第4分科会〕 1・2歳児の現状と保育・子育て支援のあり方

— 子育てと子育て家庭を支える保育所となるために —

〈助言者〉 新潟県立大学 准教授 角張 慶子 他

〔第5分科会〕 3歳以上児（異年齢保育）の現状と保育・子育て支援のあり方

— 子育てと子育て家庭を支える保育所となるために —

〈助言者〉 新潟青陵大学 助教 齋藤 勇紀 他

〔第3分科会 ～ 第5分科会共通〕

保育所は、子どもが生涯にわたる人間形成の基礎を培うきわめて重要な成長の時期に深く関与します。そのため、保育の実践にあたっては、絶えず子の育ちと保育の実践を振り返りながら、改善していくことが求められます。保育所保育指針に基づいて、年齢別の保育を充実していくと共に、低年齢児と高年齢児の異年齢保育などの組み合わせを含め、より効果的な保育実践の取り組みについて研究を深めます。

【研究の視点】

- (1) 子どもの育ち(発達区分)の現状はどうか、保育所の中から明らかにしていく
- (2) 現状に即した保育のあり方
(保育所保育指針を踏まえて考える。また、異年齢児保育プログラムとその考え方を含む)
- (3) 子どもの現状に即した子育て支援のあり方

〔第6分科会〕 家庭や地域との連携による食育の推進

ー子どもの食事と栄養・食育を考えるー

〈助言者〉新潟大学 教授 高木 幸子 他

乳幼児期の食育の推進は、「食べる」ことや「いのち」への関心、さらに適切な食習慣の形成において大変重要です。そして食に関する家庭との相互理解、さらには地域子育て家庭にむけた食育実践や地域の食文化継承などの視点から、保育所のみならず家庭や地域との連携のもとで実践を進めることが必要となります。

さらに保育所では、自園調理の意義や有用性の確立ならびに、食物アレルギーをもつ子どもへの対応等も大きな課題となっています。

本テーマでは、保護者、家庭や地域と連携した食育の実践、食物アレルギーへの対応、食を通した保育実践のあり方などについて研究を深めます。

【研究の視点】

- (1) 日々の保育の中に食育をどのように位置づけていくか
- (2) 食育への取り組みにおける家庭との連携をどのようにすすめるか
- (3) 子どもの食生活や栄養の実態を踏まえて、どのような食事の提供を行う必要があるか
- (4) 保育所利用者だけではなく、栄養士(専門職)や調理室(設備)などを活かして地域社会に対してどのように食育を発信していくことができるか

(様式)

第62回新潟県保育事業研究大会参加申込書

市町村名 _____ 申込み担当者 _____ 電話 _____

No.	所属・施設名	公私	職 名	氏 名	分 科 会		備 考
					第1希望	第2希望	
1							
2							
3							
4							
5							
6							

※第2希望を必ず記入して下さい。

■交通手段について

(1) 駐車場スペースには限度があります。なるべく公共交通機関をご利用下さい。

(注) 自家用車でお越しの場合は、順番に奥から駐車する状態になるので、途中の入出庫が出来ません。

(2) 市町村の大型並びに中型バスは、参加者の降車後、指定された駐車場に駐車してください。

■必要事項に○及び数の記入をお願いします。

(1) ①自家用車 _____ 台 ② 市町村のバス _____ 人乗り _____ 台 ③ 公共交通機関